

慶應義塾維持会



# Newsletter

2019年9月

No.12



# 奨学生から、感謝を込めて。

慶應義塾維持会をご支援いただきまして心より感謝申し上げます。  
2019年度の維持会奨学生として採用された塾生から、  
感謝の気持ちをお届けします。

## 懇話会開催

2019年7月9日(火)三田キャンパスにおいて、「慶應義塾維持会懇話会」を開催いたしました。

懇話会は、笑顔に溢れた賑やかな懇談の場となりました。



岩沙弘道維持会会長からの挨拶。

「志をお持ちのみなさんの気概が伝わってきます。今後とも頑張ってください。」とのご挨拶をいただきました。



## 懇話会の感想も寄せられました。

「懇話会では様々なフィールドで活躍なさっている先輩方から貴重なお話を伺うことができました。会計士として活躍した方ともお話をし、自分の選択を後押ししてくださる心強いアドバイスをいただきました。改めて自分の夢に向かって努力しようと決心することができました。今後の学生生活でも、慶應義塾生として高い志を持って生活していこうと思います。」



奨学生の代表者2名から今後の目標と、維持会への感謝の言葉が述べられました。

「多くの奨学生を代表して、慶應義塾維持会奨学金を支えてくださっている全ての皆様に感謝を申し上げたいと思います。慶應義塾維持会奨学金の援助のお陰でアルバイトが中心の学生生活ではなく、学業を中心にサークルや学生団体の活動など、様々な活動に励む事が出来ています。今年の四月に無事入学してからは、なれない土地で新しい生活をはじめ、最初のうちは大変なことも多かったのですが、維持会の奨学金の援助をいただけることが決まり、ますます、学業に励む意欲となりました。私自身が高校生のころから、研究したいと考えていた、言語学習や言語教育のあり方について学び、研究することを中心に、私の通う湘南藤沢キャンパスが誇るプログラミングなどの技術も身につけていきたいと思っています。奨学生として、多くの方々からの援助で学生生活を過ごせる事に感謝し、これからも日々成長できるよう頑張りたいと思います。」

(沖縄県出身 総合政策学部1年)



「この度は、奨学金を給付していただき、ありがとうございます。現在、慶應義塾での授業の他に、目標としている公認会計士の資格取得に向けての勉強をしておりますが、お陰様で安心して勉強に専念することができることを大変うれしく思います。大学の講義との両立は楽ではありませんが、同じ志を持った友人と切磋琢磨しながら、勉学に励んでいます。また、今回の維持会の先輩方からのご支援は、私にとって金銭面のみならず、精神的にも大きな支えになっています。将来の目標は、資格を取得し、公認会計士として経済活動の基盤を裏側から支え、より一層の経済の発展に貢献することです。また会計の知識を生かして、ベンチャー企業の上場を支援するなどの取り組みにも挑戦してみたいと考えています。そして将来、精神的、経済的に自立することができたとき、今度は自分が私のような学生を支援できる側にまわり、社会貢献をしていきたいと思います。この度はご支援をいただき、本当にありがとうございました。」

(埼玉県出身 商学部3年)





7名の奨学生にインタビューをしました。

## Q 一番興味のある授業は？

**A** 今もっとも興味があり、楽しいと感じている授業は、早期体験実習です。この授業では、将来創薬研究にかかわる私たちのために、実際にあらゆる活動を行います。講義だけでなく、製薬企業を見学させていただいたり、実際に化学物質を合成したりしています。社会に出て大学で学んだことをいかして活躍されている先輩方のお話もきくことができ、私も後に続かなければならないと身の引き締まる思いです。実験においては、実験に対するときの心構えを学ぶことができます。薬と毒は紙一重というくらいですから、危険を伴っているのだという緊張感を常に忘れないようにしなければならぬのだとわかりました。自分が将来何をしたいのかを、具体的に考えられるいい機会となっています。

鹿児島県出身 薬学部1年

**A** オーラルヒストリーワークショップです。「聞く」ということが研究にどう活かせるのかをオーラルヒストリーの手法を例にとりて考えていく授業です。質的調査法はバイアスによる情報の歪みが出てしまい、不確実な要素が多いとアカデミックの世界では今なおタブー視されることもしばしばありますが、人の語りによって得られる質的なデータは十分に研究に使うことができる、ということを示すことができれば研究の幅は広がり、定量的な分析では言及できない要素も明らかにすることができる、非常にエキサイティングな学問だと思えます。

島根県出身 総合政策学部1年

**A** The lecture I found most interested is Japanese economy, since the system of Japanese economy is different from the economic condition of other country, and it give us an unique perspective for how government side of decision influence the economy behavior. It made me realized that the problem cannot be easily solved due to raising tax and encourage people to spend, because contemporary Japanese ideology of living a simple life does not require large spending, so they tend to save. Such uniqueness made me find it is so interesting.

海外出身 経済学部3年



## Q 卒業後の進路、将来の夢は？

**A** 道德教育の在り方に影響を与える倫理学者になりたいです。私は、小学生のころに受けた道德の授業で、道德にも正解を作り、その方向へと進められる授業体制に、自分の意見とのギャップを感じて苦しみました。そのような授業は、生徒の個性を失わせ、「正解」という名の価値観で縛っているだけです。道德教育が必修化された今でも、その授業スタイルは変わっていません。私は、道德を授業にすることで、私のように苦しんでほしくはありません。哲学や倫理学を学ぶことで、授業の在り方を変えていきたいです。また、この学びが、多様化する現代社会に対応する、新たな価値観を生み出すことに繋がると信じています。そのような価値観を発信できる存在を目指したいです。

茨城県出身 文学部1年

**A** 私は、大学卒業後は大学院に進学するつもりであり、将来の選択肢の1つとして歴史学者を考えています。現在のヨーロッパにおける移民・難民問題に非常に興味があり、歴史学の視点からこの問題にアプローチしていきたいと考えています。卒業論文ではドイツのトルコ系移民と極右勢力に焦点を当てて研究しています。歴史学者になることは一筋縄ではいかないことだと思いますが、歴史学者になるという目標に向かって、今後も邁進していきたいと考えております。

埼玉県出身 文学部4年

**A** 卒業後は大学院への進学、修士課程修了後に就職という進路を希望しています。新しい反応の開発や、既存の化学反応の改良などの研究に携り、新しい材料やエネルギー資源の開発などに生かしたいと考えています。また、新しい反応を作るだけでなく、化学反応の工業的な応用にも関わりたいです。反応物の用途にもよりますが、実験室の小さなスケールでは制御できる繊細な反応も、社会に送り出して実際に産業に流通させるには、工業的な方法スケールでの制御を可能にするステップが必要だと思います。このステップに携わり、今では大量生産が難しい物質や、副生成物が多い反応、高価な触媒を多く必要とする反応などをより効率よく回すことがわたしの夢です。化学反応を制御することで社会に貢献できる人材になりたいです。

島根県出身 理工学部3年

**A** 日本のグローバル化に貢献できる運輸システムの技術者や、運輸・貿易の現場で世界の人々と交流し国家間の協調を図るビジネスマンを目指しています。高校時代に県の助成金を頂き体験したホームステイで、オーストラリアの人々の多文化共生のあり方に感銘を受け、その価値観は今後の日本を担う私たちにも不可欠な素養であると感じました。しかしこれに触れることは、海外渡航が時間・金銭的に難しい限り容易ではありません。以来、日本と世界の距離を縮める、低コストな航空機をはじめとした国際交通インフラの開発、自由貿易の推進等に興味があります。私は、まず自身が国際人としての素養を身につけ、その上で諸課題に向き合い、より良いグローバル社会構築の一助たる人物になりたいと考えています。

栃木県出身 理工学部1年

# 維持会奨学生採用実績

## 維持会奨学金

経済的理由により修学が困難な塾生を援助するため、2007年に創設しました。全国の優秀な学生に義塾で学んでもらうために地方出身者を優先採用しています。毎年、厳正な審査の下、人物、学業・成績ともに優れ、愛塾精神に富んだ塾生が採用されています。

※「維持会奨学金」は給付型で返済の必要はありません。

### 2019年度

文・経済・法・商・総合政策・環境情報学部 から	78名・各50万円
医・理工・看護医療・薬学部 から	53名・各80万円

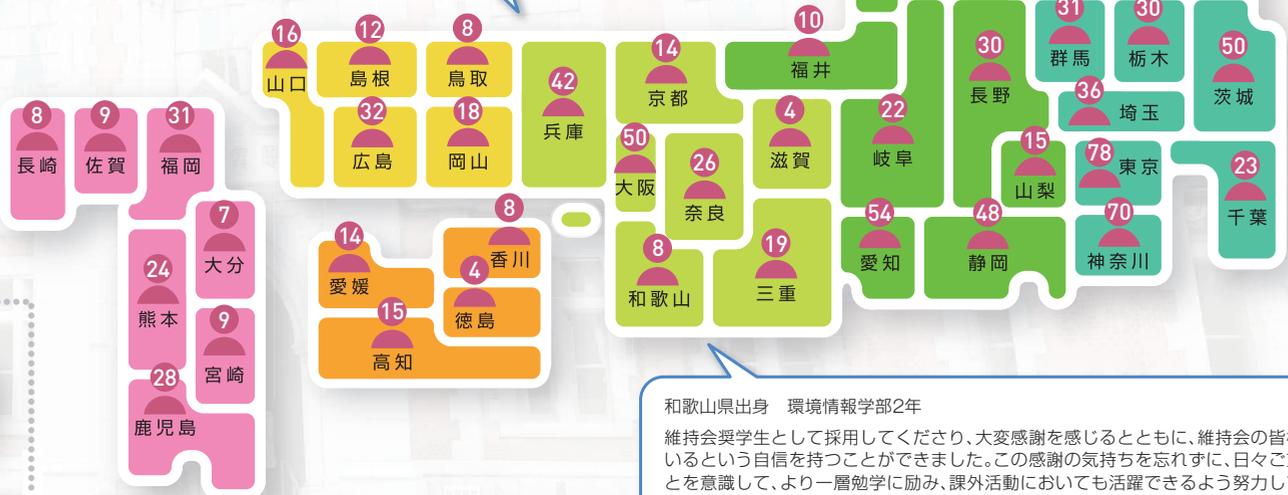
大阪府出身 商学部1年

維持会の皆様と維持会を支援して下さっている皆様に対し、給付型の奨学金を頂けることに大変感謝しています。奨学金を給付して頂くことによって経済面における不安が軽減し、学業に精一杯打ち込むことができます。また、維持会奨学生に選んで頂いた以上、授業やサークル活動などの学生生活になんとか取り組むのではなく、積極的に意義を見出さなければならないと考えています。さらに、自分は支援して下さっている皆様のおかげで慶應義塾大学に通うことができているので、将来的には自分が次世代を支援する側に回れたらなと思っています。

維持会員の皆様  
が奨学生を支えて  
くださっています



維持会員  
45,416名  
2019年3月31日現在



北海道	52
東北	70
関東	318
中部	239
近畿	163
中国	86
四国	41
九州・沖縄	144
海外	21

和歌山県出身 環境情報学部2年

維持会奨学生として採用して下さり、大変感謝を感じるとともに、維持会の皆様にご支援いただいているという自信を持つことができました。この感謝の気持ちを忘れずに、日々ご支援いただいていることを意識して、より一層勉学に励み、課外活動においても活躍できるよう努力していきたいと思っています。また、将来自分が慶應義塾に、社会に、どのように貢献していけるかを考え、より具体的なイメージを持つことができるようにしようと思います。そのためにも、自己と向き合い、強みを発見し、その強みを磨くことで問題の解決につなげていきたいと考えております。

## 2018年度 慶應義塾維持会 収支決算

(単位:円)

収入の部	寄付金	163,830,564	
	維持会基金運用収入	80,221,486	
	<b>(1) 収入の部合計</b>	<b>244,052,050</b>	
支出の部	維持会事業費	奨学支援事業	78,550,000
		その他の財政支援事業	1,421,486
	管理経費	会員用三田評論諸経費	15,701,717
		事務経費	11,992,091
	<b>(2) 支出の部合計</b>	<b>107,665,294</b>	
収支差額 (1) - (2)		136,386,756	
<b>(3) 年度末維持会基金残高</b>		<b>4,147,461,076</b>	

(2019.3.31付)

### (1)収入の部

新規入会340件、継続5,831件、計6,171件の寄付金と維持会基金運用収入により244,052,050円となりました。

### (2)支出の部

**奨学支援事業:**「慶應義塾維持会奨学金」に78,550,000円を充当しました。

**その他の財政支援事業:**キャンパス施設整備資金・「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金として1,421,486円を助成しました。

**管理経費:**会員への『三田評論』発送郵便料等、維持会勧誘に伴う趣意書等作成費・DM発送郵便料等27,693,808円を支出しました。

### (3)維持会基金残高

収支差額136,386,756円を全額維持会基金に組み入れた結果、基金残高は4,147,461,076円となりました。昨今の経済状況において運用益が減少する場合でも、維持会事業が遂行できるよう財政基盤を強化します。

## 2019年度の維持会事業についてお知らせいたします。



### ■ 奨学支援事業「慶應義塾維持会奨学金」

343名の応募があり、計131名の塾生に支給することが決定しました。

《2018年度実績》78,550,000円 416名の応募があり、計127名の塾生に支給しました。

### ■ キャンパス施設整備資金

塾生の教育・課外活動等における環境を一層充実させるための施設整備に対し、維持会からこの資金を助成します。

《2018年度実績》671,486円 大学キャンパス(三田)第1校舎教室机・椅子の購入費を助成しました。

### ■ 「福澤諭吉記念文明塾」の運営資金

慶應義塾の原点を見つめ未来貢献を志す先導者を育てるべく創立150年記念事業の一環として開講され、2018年度末をもって終了しました。

《2018年度実績》750,000円 助成しました。

## 維持会奨学生からの感謝のメッセージ

(掲載内容は一部編集、抜粋しております。)

2019年度

奨学生の感謝のメッセージは、基金室Webサイトにも掲載しています。



### 車の自動運転技術に応用され始めている強化学習の研究に携わり、交通事故を減らしたい。

現在、私は理工学部情報工学科に所属しています。情報の分野の発展は、私たちの生活に大きく貢献していることは間違いなく、生活がより良いものとなるような技術を、生涯をかけて研究及び開発をしたいと考えています。情報分野の中でも、私が特に興味を持っているのは車の自動運転技術に応用され始めている強化学習というものです。自動運転技術が確立され、実際に運用されるようになれば、毎日のように起こる交通事故を減らすことのできる可能性があります。更に、日本のような超高齢社会では、高齢者ドライバーによる交通事故も多く、ニュースで度々目にすることもあります。そのため、自動運転の重要性は年々高くなっていくことが予想されます。私は、近い将来にこの強化学習についての研究に携わりたいと考えているため、学部在籍中にはその基礎となる理論を深く掘り下げ、情報分野にまつわる様々な勉強に励みます。

勉強に集中して取り組むことが目標を達成するためには不可欠ですが、慶應義塾維持会のご支援により、私の夢の実現のための一歩を踏み出すことができることに對して、感謝の念に堪えません。この感謝の気持ちを常に持ちながら、今後も勉強に励む学生生活をおくりたいと思っております。

群馬県出身 理工学部2年

### 地域のニーズに合わせられる地域医療を行う看護師になりたい。

私が看護師を志したのは、地元の医療崩壊がきっかけです。人員不足で救急車の受け入れができない状況が続き、また、同時にこのような状況が全国的にもあることを知り、自分が医療職につき貢献しようと決意しました。このようなことがきっかけで今看護の道に立っているので、将来は地域のニーズに合わせられる地域医療を行うことが私の役目だと考えています。現在は、ボランティア活動を通して地域の方々との交流を大切にしながら、勉学に励んでおります。

病院実習では、昨年の夏休みの基礎実習で初めて患者さんを受け持たせていただきました。座学で得た知識が臨床で活かされることを実感することができ、とても貴重な経験となりました。現在は三年生となり、秋学期からはいよいよ慶應義塾大学付属病院や外部の施設での、分野別の本格的な実習が始まります。大量の記録物や事前学習など、大変なこともあります。一歩ずつ夢に近づいていることを感じます。日々の学習や患者さんとの関わりを大切に過ごしていきたいと思っております。

最後に、あらためて慶應義塾維持会の皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も、慶應義塾維持会の皆様や、両親をはじめ、支えてくれる方々への感謝を忘れず、また慶應義塾維持会奨学生の名に恥じぬよう、精一杯精進して参りたいと思っております。

愛知県出身 看護医療学部3年

### 過労で悩む人々を支える弁護士になりたい。

私が大学でやりたいことは大きく分けて三つあります。

第一に、法律についての知識を深めるとともに、心理学や交渉学など幅広く学ぶことです。私は、将来、過労で悩む人々を支える弁護士になりたいと考えております。そのために、論理的な考え方や人の心理を紐解く力、自分と相手との双方が納得できる交渉術を、大学の講義を通して身につけようと思っております。1、2年で法律の基礎を固め、3年からは労働法を中心に専門的な内容を学ぼうと考えております。

第二に、体育会剣道部の一員として稽古に励み、己を磨くことです。日々の厳しい稽古に耐え抜き、心身的に成長できるように頑張りたいです。また、体育会では、自分の行動に責任を持つことや、人とのコミュニケーション能力が重視されます。そのような環境で大学生活を送ることは、将来的に必ず自分の糧になると信じております。技術的な成長だけでなく、立派な人間に成長することを目指したいと思っております。

第三に、インターンシップや地域活動に積極的に参加し、社会の現状に目を向けていきたいと思っております。社会の現状や労働環境について関心を深めることで、弁護士として何が出来るか具体的に考えるきっかけを作っていきたいと考えています。

上に述べたことだけでなく、様々なことに大学で積極的に挑戦したいと考えています。大学での学びや仲間、経験は必ず将来の自分を支えてくれるものになると思っています。だからこそ、私は奨学金を給付していただけることに感謝の気持ちを忘れず、大学生活の1日1日を大切に生きて過ごしていきます。大学生活を通して成長し、立派な人間として、維持会の皆様に恩返しできるよう、精進して参ります。

山形県出身 法学部1年

### 国際的に活躍する会計士になりたい。

私は現在商学部在籍しており、専門科目の基礎、外国語、総合教育科目を学んでいます。将来は公認会計士になり国際的に活躍したいと考えているため、これからは特に会計や外国語の学習に力を入れたいと考えています。

今回の奨学金をいただき、自身の生活について見直す機会を与えていただいた事で、自身が勉学に励む絶好の環境にいることを再認識し、活用できていないことに気づかされました。例えば、第二言語として選択した中国語インテンシブクラスでは、日が経つごとに急速に知識が増えることで学ぶことができる喜びを感じ、総合教育科目として選択した相対性理論の授業では、自身が授業をする立場となる経験から上手く伝えることのできない自身の未熟さを痛感し、一つ一つの授業が私の成長につながるのがとても感じられます。今、この環境でしかできないことを大事にして何をすべきかを冷静に判断し、豊かな学園生活を送ろうと思っております。

改めて、維持会奨学生に採用していただき心より感謝申し上げます。慶應義塾維持会の方々の温かいご支援を深く心に刻み、奨学生としての自覚を常に持ち、慶應義塾の更なる発展に貢献する人材となるべく、日々精進していきたいと思っております。

和歌山県出身 商学部1年

基金室WEBサイトにも奨学生のインタビューや感謝のメッセージを多数掲載しています。ぜひご覧ください。

## 慶應義塾維持会とは

1901(明治34)年2月3日、福澤諭吉の逝去に伴い、義塾社中の人々は義塾の運営に資するための方策を真剣に討議しました。その結果生まれたのが「慶應義塾維持会」です。慶應義塾は「義塾(パブリック・スクール)」の名が示すとおり、社中の協力と共同責任において維持・運営されるものであり、維持会の組織化はそうした義塾の理念を具体化したものといえます。

現在、維持会員数は約45,000名を超え、会員の皆様からのご厚志による維持会基金は、2017年度末には約40億円を超えております。2007年度にはこの基金の運用益を充てることで「慶應義塾維持会奨学金」を創設、愛塾心に富んだ優秀な塾生の経済的負担を軽減し充実した学生生活を送れるよう支援しています。また、義塾の教育・研究の振興、施設の拡充などに幅広く寄与しています。



## 奨学生のメッセージ

維持会奨学生から感謝のメッセージが寄せられています。維持会員おひとりおひとりの温かいご厚志に対する感謝の心と、将来への志を持って勉学に励む姿をご紹介します。

奨学生の出身地別に掲載しています。

(都合により一部編集して掲載しております。ご了承ください。)

2019年度は343名の応募があり、厳正な審査を経て、37都道府県・海外出身者、計131名の塾生に総額8,140万円を支給することが決定しました。これまでに47都道府県・海外出身者、計1,134名が採用され勉学・課外活動に充実した学生生活を送っています。

## 加入特典

### 『三田評論』の贈呈



義塾の機関誌『三田評論』を芳名掲載号(ご入金から約2~3ヵ月後)からご加入期間、贈呈します。

(参考：通常 年間定期購読料4,600円)

### 【三田評論】

慶應義塾の機関誌。明治31(1898)年創刊。

時々の話題をわかりやすく解説した特集、講演録、随想、活躍中の塾員紹介、義塾の近況等が満載されています。小型総合雑誌としての充実ぶりは、各方面から高い評価が寄せられています。

### 記念品の贈呈



新規で終身会員にお申し込みくださったか方(既に普通会員の方が終身会員にお申し込みの場合も含みます)には、維持会オリジナル記念品を贈呈します。

本革トレイ(日本製・ベンマーク入り)

(贈呈するトレイの色は写真と異なります。)



慶應義塾維持会

# Newsletter No.12

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

TEL.03-5427-1545(平日9:00~17:00)

FAX.03-5427-1546

E-mail:kikin-box@adst.keio.ac.jp

https://kikin.keio.ac.jp/ijikai/

発行日 2019年9月27日

発行 慶應義塾基金室 維持会担当

